

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270103981		
法人名	医療法人 社団 健昌会		
事業所名	ぐるーぷほーむ新里油木 2階 楽々		
所在地	長崎県長崎市江里町7-21		
自己評価作成日	平成30年10月14日	評価結果確定日	平成31年1月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&ligyosyoCd=4270103981-00&PrefCd=42&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14番12号		
訪問調査日	平成30年11月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

GHの理念に基づき、毎日その人らしく楽しく生活できるように、買い物がお好きな方と近隣に外出したり、行事の予定を立て、ドライブや、外食、季節感を感じて頂けるようサービスの提供を実施しております。月に1度先生をお招きして音楽教室を行う等、ご入居者が笑顔が絶えないように力を入れています。また、個別外出支援「あなただけの一日」の実施も平成26年2月より継続しております。清潔保持や居室の清掃もこまめに行い、安全・快適を目指しています。また、週に一度、訪問診療があり、医療との連携も確立しております。生活リハビリを積極的に行い、また、他入居者との交流を行なえるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

特に優れている点として地域との関係が良好で、ホームと地域と相互通行の交流を行うことができている。これは大きな行事だけではなく、ホームスタッフの普段の地域清掃等、日常の地道な取り組みも貢献している。また地域住民がホームの消防訓練にも参加してくれるため、ホームの中の構造やご入居者の対象像を把握できて、万が一の事態にも備えることができている。次に運営推進会議で活発な意見交換を行うことができている。この会議は特に家族の参加率が高く、ご入居者支援の一環として非常に有益的で、生活の質の向上につながっている。最後に「あなただけの一日」というホーム独自の個別外出支援企画を掲げることができる。この企画はご入居者の行きたい場所、したいことを具現化してくれる取組みで、ご入居者や家族にとって特別感を感じることができるし、家族も一緒に参加することで、信頼関係を深める一役にもなっている。この企画の背景にはご入居者の生活歴を知るための専門的な視点からもアプローチしているため、馴染みの関係継続の支援の一環にもなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット毎に理念を掲げ、理念に沿ったサービス提供を心掛けています。理念の中にある「ご入居者は人生の大先輩である」という事を常に頭に入れ、敬う心を忘れないように努めています。	ご入居者にとってホームが自分の家だと思ってもらえるような支援を提供するため、法人の理念をホームの理念に落とし込んで、更にユニット毎の理念を作成している。このユニット毎の理念は、ホーム開設時に在籍していたスタッフの想いが詰まった文言ということであった。また、スタッフ間での共有については、スタッフの新入時に理念の意味を説明することが第一歩であることと、毎月開催しているユニットミーティングの際に、不定期的ではあるが、管理者が理念をご入居者支援に落とし込んでいるか確認している。ユニット毎の理念は、現在の支援内容と異なる一面もあるため、そろそろ見直しの時期であるという話を聞くことができた。	ユニット毎の理念に関して、一部分ではあるが時代背景も変化して、見直しが必要な文言もある様子であった。現況の取組みをスタッフ皆で振り返り、新たにユニット毎の理念の作成を期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事・盆踊り・敬老会や消防訓練には積極的に参加し、お手伝いをしています。また、こちらの行事では夏祭りや敬老会、消防訓練など地域の方々にも参加して頂き、交流の場を設けるようにしています。	ホームを運営する法人は、所在する地域において、昔から住民と繋がりがあるため、地域とホームと相互通行の関係を築くことができている。例えば様々な地域の行事に率先して参加するだけでなく、地域の掃除等普段の小さなことにも協力することで、信頼関係がますます強固なものとなっている。このような積み重ねが消防訓練の参加にも反映されていて、ご入居者の安全な生活を支えることにもつながっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の高齢者の暮らしに役立つ事がないか話し合い、市民大清掃や地域の行事等に入居者を連れて参加している。また、長崎大学の看護学生の認知症高齢者の対応研修の受け入れも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご入居者の状況報告を行ったり、直接ご家族の想いや意見を毎回聞くことができ、よりきめ細やかなサービスの向上に努めています。	運営推進会議は2ヶ月に1回定期的に開催しているが、年に2回だけ、同一地域に所在する同一法人の地域密着型サービス事業所と共同開催して、幅広い意見を得ることができている。会議は家族の参加者が各ユニットから2, 3名ずつあるため、ご入居者への直接的な処遇に関して、かなり深い意見が出てくるとのことであった。事実、議事録を3回分確認したが、詳細な点まで質疑応答が記録されていた。活発な意見交換ができていた様子で、目的に沿った意義ある会議となっている。今後の目標としては、ホームで実施している認知症の勉強会や、文化的な活動に家族等の参加を促していく点と、会議の参加者に対して、スタッフの活動や委員会の内容等を、今以上に詳しく伝えていきたいということであった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターや自治会と会議、地域活動等を通じて協力できるよう積極的に取り組んでいます。	ホームの所在する中学校区の地域包括支援センターとは、相談しやすい関係を構築できているとのことで、地域包括支援システムの構築にあたり、地域ケア会議に参加したり、地域リハビリテーション支援マップの作成に協力したり、目の前のことだけではなく地域をベースにした関わりを持つことができている。この他の行政との関わりとして、地域の独居老人の情報を可能な範囲で得ることで、万が一の際に地域の機関と協力体制を整える等、地域で高齢者を支えるという行政機関の方針にホームも加担している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>虐待防止委員会の中で身体拘束についても話し合い、ユニットミーティング時に職員に報告したり、みんなで話し合う機会を設け、職員全員で取り組んでいます。</p>	<p>身体拘束や虐待の廃止に関する取り組みは、組織的に法人全体で行っている。その中枢を担うのが虐待防止委員会で、特に法人内の介護部門事業所の代表者で形成されていて、毎月開催されているとのことであった。ここで話し合った内容等は毎月1回ホームで開催されている、ユニットミーティングで情報共有及び協議されており、法人全体として一体的に取り組んでいることを確認することができた。現在、ホーム内で特に強化している事案は「言葉使い」で、ミーティングの場で繰り返し不適切なケアにつながる第1歩であることを説いたり、必要に応じてスタッフと個別面談をしたりと、啓発活動を持続的に行っている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止委員会にて虐待と思われる行為について事例検討し、その結果をミーティング時に報告しています。職員全員で取り組み、虐待防止に努めています。</p>	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	よりよい知識を深めるため、勉強会などに参加し、要望のあるご入居者には制度を活用して頂く様にしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	法改正等の重要事項説明書内容変更の際にはご家族の疑問や質問にに対し、理解を得て頂くよう十分な説明を行なっています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族面会の際に意見・要望がないか聞くようにしているほかに、ご意見箱の設置や運営推進会議・家族懇親会で意見を頂く機会を作っています。また、ご家族にはホーム便りを送付しています。	家族からの情報収集は、面会の時に気掛けて伺うことが多数を占めているとのことであった。この他、活発に意見の出る2ヶ月に1回の運営推進会議の場や、年に1回各ユニットで実施している家族懇談会で、家族が意見を表出する場面を作っている。特に家族懇談会は家族と食事を一緒に取りながら行っているとのこと、雰囲気や和らげる評価できる取組みの1つと言える。このように複数の手段を活かして家族からの意見を得て、優先順位を付けながら改善に取り組んでいる。この他、遠方に居住する家族へは、3ヶ月に1回「油木便り」というホーム便りを送り、近況を報告したり信頼関係の構築に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットミーティング等を利用し、意見や要望を話し合いながら信頼関係を築けるようにしています。	スタッフからの意見は、主に毎月実施しているユニットミーティングの場で得ることが多く、管理者がその内容を項目ごとに集約するようにしている。このミーティングにおいて、スタッフからの意見は活発に出てくることであった。但し、中には皆の前で意見を言うことの苦手なスタッフもいるため、管理者が個別に話をして情報を得たり、年度末近くになると人事考課も含めて、スタッフと個人面談も行っている。事業所訪問の際、介護従事者とのヒアリングを行ったが、2名中2名とも意見を言いやすい環境であり、伝えたことを比較的早く行動に移してくれるとのことであった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員1人1人の特性を見出し、向上心を持って働けるよう努めています。代表者も現場を訪れ、職員の状況把握に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の能力に合わせた教育計画を作成し、外部研修の呼びかけや他部署への研修を行ない、働きながらトレーニングしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア推進会議や勉強会等に積極的に参加して、良いところは学び、取り入れるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学をして頂いて説明を行ない、疑問や不安、要望などをお聞きしています。ご本人の生活歴などの情報を集め、信頼関係を築けるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の事前説明時に家族の想い、困られている事や不安な事に傾聴し、出来るだけご要望に沿えるよう丁寧に説明を行ない、関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人が必要としている支援を見極め、家族の意見・要望も考慮しながら支援できるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯干し・洗濯たたみ、食器拭きや掃除機掛けなどを自然な形で無理が無いように、その日の体調を職員が確認しながら一緒に行なっています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族へ行事の参加をお願いしたり、ホーム便りで本人の様子をお伝えしています。又、面会に来られた時はお互いに情報交換しながらより良い支援が出来るように協力関係の構築に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人と馴染みの方との面会はもちろん、ご本人の希望があれば電話や挨拶のハガキが出せるように支援し、関係の継続に努めています。	この項目における特徴的な取組みとして、ホームでは「あなただけの一日」という企画を行っている。この企画は計画的にご入居者の個別外出支援を行っているわけだが、この行先に馴染みの場所を選んだり、昔の思い出の地に出向いたりすることが多いとのことであった。この企画は前もって検討段階の際に、ご入居者や家族に対して情報収集を行い実行しているもので、ご入居者や家族から大変好評のようであった。この他、馴染みの人との支援に関しては、通常の面会が中心とはなるが、年賀状や手紙を送付する支援も行っているとのことであった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気が合う方同士の席の配置に気を配り、おやつ時間、体操、レクリエーション等ご入居者同士が気軽に集まって関わりあえるように支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同法人内の施設などに移られた方は、スタッフ間で情報を共有して継続的に支援しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族や本人からお話を聞いたりして、これまでの生活を大切にケアプランの検討を行なっています。	ホームが作成した「入居時間き取りシート」に沿って、入居時に本人や家族から「生活歴」や「暮らし方の好みや希望」を聞き取り、それに基づいて支援した時の言葉や表情から、ご入居者の思いや意向の把握に努めている。また、面会時に家族からの情報、日常の会話の中での言動、表情から思いを汲み取る努力をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や本人からの聞き取りや担当ケアマネージャー等から話を聞くなどして、これまでのサービス利用や生活歴の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録に残し、情報を共有する事はもちろん、ミーティングでも一人一人の状態について話し合い、現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時は家族の意見を伺い出来るだけ意向に添うように作成しています。又、ミーティング時や日頃の業務の中でも検討を行なっています。	介護計画に沿って実施できたかを「実施チェック表」で毎日記録し、それを基にユニット会議(各ユニットで開催)で支援経過を話し合っている。その後、ユニットミーティング(全ユニットスタッフ参加)でモニタリングを持ち寄り、課題やケア内容を検討し原案を作成している。原案と支援経過を家族に説明して、家族の要望や意向を反映した本案を作成し同意を得ている。状態変化時は、主治医の指示や家族の意向を踏まえてスタッフ間で検討し介護計画を見直し同意を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に添った支援が来ているか、チェック表を作成し、毎日記入しています。統一出来るように業務日誌の申し送り欄にて情報共有をしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	提携医療機関に関して受診や退院時の送迎を行なうなど柔軟な対応を行なっています。提携以外の医療機関受診の場合もヘルパーや介護タクシーの紹介等をさせていただきます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議にて地域の方々にご協力頂けるよう働きかけています。消防署をはじめ、警備会社や地域の方々と連携を図り、安全な生活を送れるように支援しています。また、地域のイベント等に職員が参加する事で交流を図っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関以外は、原則ご家族対応にて受診して頂いています。受診前後には情報交換を行ない、必要に応じて医師との連絡を取り合い、信頼関係を築いています。	入居時に、ご入居者や家族が希望する医師に受診できるように話し合い了承を得ている。通院の仕方や受診報告のあり方について家族と話し合い情報を共有している。歯科、眼科等の他科受診の際も、バイタル等の情報提供を行っている。母体が医療法人であり、主治医がホームに週1回往診し24時間連絡体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間体制にて主治医・看護師と連絡を取り合い、対応する体制が出来ています。普段より、緊急時にも対応出来るよう細やかな情報交換を行なっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご入居者の入院時には医療機関への情報提供を行ない、主治医への相談やご家族の連絡を取る事により安心できる早期退院への取り組みを行なっています。また退院時にはグループホームでの受け入れ態勢を整えています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期を迎えたご入居者のご家族や医師と連携、相談をしてマニュアルを作成しています。希望に沿った支援が出来るように定期的にチームで話し合い、見直しを行なっています。	入居時に、重度化した場合の「医療の対応について」文書で説明し同意を得て「看取りに関する指針」を説明している。終末期と医師が判断した時点で、医師から家族に説明があり、ホームとして「医師の診断と療養方針の同意書」を説明し同意を得ている。その後、「看取り介護ケア同意書」で同意を得た後、医師の指示に沿って「看取り介護計画」を作成している。毎月モニタリングを行い更新しているが、状況変化のたびに、医師に相談して「看取り介護計画」を見直している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内外における研修に各職員が参加する事や緊急時マニュアルを把握しておく事で、緊急時にも冷静な対応ができるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年2回の避難訓練や毎月のユニットミーティング、勉強会を通じ、初期消火・避難道具・非常時の連絡、通報、誘導など全職員が参加し、身につけるよう努めています。また、訓練時には地域の方やご家族の参加も呼びかけ、協力を得ています。	消防計画、防災計画に基づき、地震発生時を想定した訓練を行い、その後火災を想定した避難訓練を行っている。運営推進会議で報告し、家族の意見や自治会からの情報を得ている。災害に備えて、飲料水や食料等を準備している。また、自治会の防災訓練に参加し、地域との協力体制を図っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者一人一人の人格を尊重する為、職員が自分振り返りの勉強会に参加したり、丁寧な言葉遣いを徹底しています。又、申し送りなど、ご入居者に関わることはご入居者の居ない場所で行なっています。	事例を基に勉強会を毎月開催し、スタッフ一人ひとりが自身の言動を振り返る機会を作る等、改善に向けた取り組みを行っている。管理者が日々の支援の中で気になる言動があればその都度注意し、毎日の申し送り時に「接遇マニュアル」を読み合い周知を図っている。また、個人情報は鍵付き書庫に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者の状態に応じた声掛けや対応を心掛け、意志表出が困難な方に対しては、日ごろの観察を徹底して、表情や仕草を読み取るよう、心掛け、自己決定できるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室に閉じこもってしまうばかりにならないように生活リズムが乱れない程度に声掛けし、なるべく他の方との交流が図れるようにしています。その時の気分や体調を考慮して、本人の自己決定を尊重しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時は帽子や上着をご本人と一緒に選び、またパジャマや洋服をスタッフと選び、日夜のリズムを大切にしています。また、月に1回の美容サービスも希望に応じて受けられるようになっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お誕生日にはバースデイケーキをご用意したり、鍋・お好み焼き等を入居者の前で調理したりして、食事を楽しんで頂けるように取り組んでいます。	残存能力に応じて、食器やテーブル拭き等を手伝っている。ご入居者の好みを入れた献立に沿ってスタッフが調理し、食事の匂いや調理の音を感じることを大切に支援している。ホットプレートでスタッフと一緒にお好み焼きを作る、各ユニットごとに外食に行く、スタッフが弁当を作ってピクニックに出かける等、食事を楽しみ、食欲を高める工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量から調理方法や形態を日々考え、少しでも安全に美味しく召し上がって頂けるよう工夫しています。水分補給はトロミをつけたり、代替品(アイスクリーム、ゼリー・ポカリ等)を使用し、ご本人が好んで摂取できるようにして提供しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後に口腔ケアをして頂いています。ご自分で口腔ケアが困難な場合は職員が支援しています。又、提携している歯科受診や口腔ケアサービスも使用しています。義歯の方は定期的に入れ歯の洗浄を行なっています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を有効活用し、個々の排泄間隔の把握に努めています。失敗してしまっても周囲の方に気付かれないように配慮しています。ご入居者からのサインも見逃さないよう観察し、職員間でも情報共有に努めています。	「排泄チェック表」で排泄のリズムを掴み、トイレに誘導する、尿量に合わせてパットを工夫する等、個別の排泄支援を行い、オムツやパットの削減を図っている。また、ご入居者の行動や言動を観察し、スタッフ間で支援内容を検討し、サインの情報共有や支援方法の統一を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便状況の確認を行ない、便秘薬の調整を行なっています。又、水分補給、食事、運動など、工夫を行ない便秘の予防が努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴チェックシートを付けて、ご入居者の要望に合わせた入浴をして頂いています。一人一人の入浴の好みを把握し、楽しめる様に支援しています。希望時には可能な限り応じるようにしています。	これまでの生活習慣や家族の要望に応じて入浴回数を検討する、ご入居者好みのシャンプーや石けん、タオルを使用する、温泉に入りたいとの希望を受け、民間の銭湯に連れて行く等、一人ひとりの習慣や好みに応じた個別の入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人が自由に休める様な形を取っています。疲労感が見られる時やその方の生活習慣に応じて休んで頂けるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬について理解出来るように、薬情報書をいつでも見られるようにファイルに綴じて、申し送りを行ない、職員間で周知できるように努めています。又、服薬時にダブルチェックし、誤薬事故のない様に取り組んでおります。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事などはして頂き、食器拭き・洗濯干し・掃除などの作業提供を行なっています。他階に行き、話しの合う方とコミュニケーションが取れるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩に出掛けたり、駐車場に出てみんなで日光浴をしています。又、ご家族に依頼してお墓参りや自宅へお連れして頂いています。	気分転換に散歩に出る、車いす対応車で外出する等、重度のご入居者も戸外で過ごせるように支援している。個別の外出支援として「あなただけの一日」をご入居者や家族と共に企画して、100歳のお祝いに家族とホテルで食事をする、寿司を食べに行く等、外出支援を通して、家族と話す時間を作る事でアセスメントを深める機会を作り、ご入居者や家族との信頼関係を築いている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分でお金、財布を所持している方も居られます。散歩や外出時に持参しお金を使う機会もあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が好きな時、かけたい時に掛けれるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂けるように、お花を飾ったりご入居者と共同して作成した工作物を飾ったりして環境づくりを行なっています。	ご入居者の作品を飾り、ご入居者の相性や家族の希望に沿って席の配置を検討する等、自宅と同じように過ごしていただく事を大切に支援している。ホールやトイレの換気を毎日行う、年2回エアコンフィルターの掃除を行う、加湿器で湿度調整をする等、感染予防にも努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合ったご入居者同士、隣に座って会話が出来るようにしています。テレビを見たり、新聞を読んだり、広告折りをしたりと好きな事をして過ごせるように心掛けています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族に依頼して写真を持って来て頂いたり、使い慣れた物や仏壇などをもって来て頂き、ご本人が安心して生活できる空間を作れるように工夫しています。	ご入居者が迷わないように部屋のドアに写真を貼る、自宅で使っていた本棚に懐かしい写真のアルバムを置き、いつでも見られるようにする、テレビや冷蔵庫、掛け軸を飾る等、居心地のいい居室作りに取り組んでいる。また、ベッドからの立ち上がり、居室のドアまでの移動がスムーズにできるように家具の配置を検討している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレ、風呂場など分かりやすいように表示し、間違わないようにしています。フロア内も環境整備を行ない、事故につながらないように気を付けています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270103981		
法人名	医療法人 社団 健昌会		
事業所名	ぐるーぷほーむ新里油木 3階 喜々		
所在地	長崎県長崎市江里町7-21		
自己評価作成日	平成30年10月14日	評価結果確定日	平成31年1月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=4270103981-00&PrefCd=42&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14番12号		
訪問調査日	平成30年11月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

GHの理念に基づき、毎日がその人らしく楽しく生活できるように、買い物がお好きな方と近隣に外出したり、行事の予定を立て、ドライブや、外食、季節感を感じて頂けるようサービスの提供を実施しております。月に1度先生をお招きして音楽教室を行う等、ご入居者が笑顔が絶えないように力を入れています。また、個別外出支援「あなただけの一日」の実施も平成26年2月より継続しております。清潔保持や居室の清掃もこまめに行い、安全・快適を目指しています。また、週に一度、訪問診療があり、医療との連携も確立しております。生活リハビリを積極的に行い、また、他入居者との交流を行なえるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/>
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/>	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) <input type="radio"/>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) <input type="radio"/>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) <input type="radio"/>		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット毎に理念を掲げ、理念に沿ったサービス提供を心掛けています。理念の中にある「ご入居者は人生の大先輩である」という事を常に頭に入れ、敬う心を忘れないように努めています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事・盆踊り・敬老会や消防訓練には積極的に参加し、お手伝いをしています。また、こちらの行事では夏祭りや敬老会、消防訓練など地域の方々にも参加して頂き、交流の場を設けるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の高齢者の暮らしに役立つ事がないか話し合い、市民大清掃や地域の行事等に入居者を連れて参加している。また、長崎大学の看護学生の認知症高齢者の対応研修の受け入れも行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご入居者の状況報告を行ったり、直接ご家族の想いや意見を毎回聞くことができ、よりきめ細やかなサービスの向上に努めています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターや自治会と会議、地域活動等を通じて協力できるよう積極的に取り組んでいます。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待防止委員会の中で身体拘束についても話し合い、ユニットミーティング時に職員に報告したり、みんなで話し合う機会を設け、職員全員で取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会にて虐待と思われる行為について事例検討し、その結果をミーティング時に報告しています。職員全員で取り組み、虐待防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	よりよい知識を深めるため、勉強会などに参加し、要望のあるご入居者には制度を活用して頂く様にしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	法改正等の重要事項説明書内容変更の際にはご家族の疑問や質問にに対し、理解を得て頂くよう十分な説明を行なっています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族面会の際に意見・要望がないか聞くようにしているほかに、ご意見箱の設置や運営推進会議・家族懇親会で意見を頂く機会を作っています。また、ご家族にはホーム便りを送付しています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットミーティング等を利用し、意見や要望を話し合いながら信頼関係を築けるようにしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員1人1人の特性を見出し、向上心を持って働けるよう努めています。代表者も現場を訪れ、職員の状況把握に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の能力に合わせた教育計画を作成し、外部研修の呼びかけや他部署への研修を行ない、働きながらトレーニングしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア推進会議や勉強会等に積極的に参加して、良いところは学び、取り入れるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学をして頂いて説明を行ない、疑問や不安、要望などをお聞きしています。ご本人の生活歴などの情報を集め、信頼関係を築けるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の事前説明時に家族の想い、困られている事や不安な事に傾聴し、出来るだけご要望に沿えるよう丁寧に説明を行ない、関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人が必要としている支援を見極め、家族の意見・要望も考慮しながら支援できるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯干し・洗濯たたみ、食器拭きや掃除機掛けなどを自然な形で無理が無いように、その日の体調を職員が確認しながら一緒に行なっています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族へ行事の参加をお願いしたり、ホーム便りで本人の様子をお伝えしています。又、面会に来られた時はお互いに情報交換しながらより良い支援が出来るように協力関係の構築に努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人と馴染みの方との面会はもちろん、ご本人の希望があれば電話や挨拶のハガキが出せるように支援し、関係の継続に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気が合う方同士の席の配置に気を配り、おやつ時間、体操、レクリエーション等ご入居者同士が気軽に集まって関わりあえるように支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同法人内の施設などに移られた方は、スタッフ間で情報を共有して継続的に支援しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族や本人からお話を聞いたりして、これまでの生活を大切にケアプランの検討を行なっています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や本人からの聞き取りや担当ケアマネージャー等から話を聞くなどして、これまでのサービス利用や生活歴の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録に残し、情報を共有する事はもちろん、ミーティングでも一人一人の状態について話し合い、現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時は家族の意見を伺い出来るだけ意向に添うように作成しています。又、ミーティング時や日頃の業務の中でも検討を行なっています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に添った支援が出来ているか、チェック表を作成し、毎日記入しています。統一出来るよに業務日誌の申し送り欄にて情報共有をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	提携医療機関に関して受診や退院時の送迎を行なうなど柔軟な対応を行なっています。提携以外の医療機関受診の場合もヘルパーや介護タクシーの紹介等をさせていただきます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議にて地域の方々にご協力頂けるよう働きかけています。消防署をはじめ、警備会社や地域の方々と連携を図り、安全な生活を送れるように支援しています。また、地域のイベント等に職員が参加する事で交流を図っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関以外は、原則ご家族対応にて受診して頂いています。受診前後には情報交換を行ない、必要に応じて医師との連絡を取り合い、信頼関係を築いています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間体制にて主治医・看護師と連絡を取り合い、対応する体制ができています。普段より、緊急時にも対応が出来るよう細やかな情報交換を行なっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご入居者の入院時には医療機関への情報提供を行ない、主治医への相談やご家族の連絡を取る事により安心できる早期退院への取り組みを行なっています。また退院時にはグループホームでの受け入れ態勢を整えています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期を迎えたご入居者のご家族や医師と連携、相談をしてマニュアルを作成しています。希望に沿った支援が出来るように定期的にチームで話し合い、見直しを行なっています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内外における研修に各職員が参加する事や緊急時マニュアルを把握しておく事で、緊急時にも冷静な対応ができるように努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年2回の避難訓練や毎月のユニットミーティング、勉強会を通じ、初期消火・避難道具・非常時の連絡、通報、誘導など全職員が参加し、身につけるよう努めています。また、訓練時には地域の方やご家族の参加も呼びかけ、協力を得ています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者一人一人の人格を尊重する為、職員が自分振り返りの勉強会に参加したり、丁寧な言葉遣いを徹底しています。又、申し送りなど、ご入居者に関わることはご入居者の居ない場所で行なっています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者の状態に応じた声掛けや対応を心掛け、意志表出が困難な方に対しては、日ごろの観察を徹底して、表情や仕草を読み取るよう、心掛け、自己決定できるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室に閉じこもってしまうばかりにならないように生活リズムが乱れない程度に声掛けし、なるべく他の方との交流が図れるようにしています。その時の気分や体調を考慮して、本人の自己決定を尊重しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時は帽子や上着をご本人と一緒に選び、またパジャマや洋服をスタッフと選び、日夜のリズムを大切にしています。また、月に1回の美容サービスも希望に応じて受けられるようになっていきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	お誕生日にはバースデーケーキをご用意したり、鍋・お好み焼き等を入居者の前で調理したりして、食事を楽しんで頂けるように取り組んでいます。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量から調理方法や形態を日々考え、少しでも安全に美味しく召し上がって頂けるよう工夫しています。水分補給はトロミをつけたり、代替品(アイスクリーム、ゼリー・ポカリ等)を使用し、ご本人が好んで摂取できるようにして提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後に口腔ケアをして頂いています。ご自分で口腔ケアが困難な場合は職員が支援しています。又、提携している歯科受診や口腔ケアサービスも使用しています。義歯の方は定期的に入れ歯の洗浄を行なっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を有効活用し、個々の排泄間隔の把握に努めています。失敗してしまっても周囲の方に気付かれないように配慮しています。ご入居者からのサインも見逃さないよう観察し、職員間でも情報共有に努めています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便状況の確認を行ない、便秘薬の調整を行なっています。又、水分補給、食事、運動など、工夫を行ない便秘の予防が努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴チェックシートを付けて、ご入居者の要望に合わせた入浴をして頂いています。一人一人の入浴の好みを把握し、楽しめる様に支援しています。希望時には可能な限り応じるようにしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人が自由に休める様な形を取っています。疲労感が見られる時やその方の生活習慣に応じて休んで頂けるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬について理解出来るように、薬情報書をいつでも見られるようにファイルに綴じて、申し送りを行ない、職員間で周知できるように努めています。又、服薬時にダブルチェックし、誤薬事故のない様に取り組んでおります。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事などはして頂き、食器拭き・洗濯干し・掃除などの作業提供を行なっています。他階に行き、話しの合う方とコミュニケーションが取れるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩に出掛けたり、駐車場に出てみんなで日光浴をしています。又、ご家族に依頼してお墓参りや自宅へお連れして頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分でお金、財布を所持している方も居られます。散歩や外出時に持参しお金を使う機会もあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が好きな時、かけたい時に掛けれるように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂けるように、お花を飾ったりご入居者と共同して作成した工作物を飾ったりして環境づくりを行なっています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合ったご入居者同士、隣に座って会話が出来るようにしています。テレビを見たり、新聞を読んだり、広告折りをしたりと好きな事をして過ごせるように心掛けています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族に依頼して写真を持って来て頂いたり、使い慣れた物や仏壇などをもって来て頂き、ご本人が安心して生活できる空間を作れるように工夫しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレ、風呂場など分かりやすいように表示し、間違わないようにしています。フロア内も環境整備を行ない、事故につながらないように気を付けています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270103981		
法人名	医療法人 社団 健昌会		
事業所名	ぐるーぷほーむ新里油木 4階 悠々		
所在地	長崎県長崎市江里町7-21		
自己評価作成日	平成30年10月14日	評価結果確定日	平成31年1月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=4270103981-00&PrefCd=42&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14番12号		
訪問調査日	平成30年11月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

GHの理念に基づき、毎日がその人らしく楽しく生活できるように、買い物がお好きな方と近隣に外出したり、行事の予定を立て、ドライブや、外食、季節感を感じて頂けるようサービスの提供を実施しております。月に1度先生をお招きして音楽教室を行う等、ご入居者が笑顔が絶えないように力を入れています。また、個別外出支援「あなただけの一日」の実施も平成26年2月より継続しております。清潔保持や居室の清掃もこまめに行い、安全・快適を目指しています。また、週に一度、訪問診療があり、医療との連携も確立しております。生活リハビリを積極的に行い、また、他入居者との交流を行なえるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット毎に理念を掲げ、理念に沿ったサービス提供を心掛けています。理念の中にある「ご入居者は人生の大先輩である」という事を常に頭に入れ、敬う心を忘れないように努めています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事・盆踊り・敬老会や消防訓練には積極的に参加し、お手伝いをしています。また、こちらの行事では夏祭りや敬老会、消防訓練など地域の方々にも参加して頂き、交流の場を設けるようにしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の高齢者の暮らしに役立つ事がないか話し合い、市民大清掃や地域の行事等に入居者を連れて参加している。また、長崎大学の看護学生の認知症高齢者の対応研修の受け入れも行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご入居者の状況報告を行ったり、直接ご家族の想いや意見を毎回聞くことができ、よりきめ細やかなサービスの向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターや自治会と会議、地域活動等を通じて協力できるよう積極的に取り組んでいます。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待防止委員会の中で身体拘束についても話し合い、ユニットミーティング時に職員に報告したり、みんなで話し合う機会を設け、職員全員で取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会にて虐待と思われる行為について事例検討し、その結果をミーティング時に報告しています。職員全員で取り組み、虐待防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	よりよい知識を深めるため、勉強会などに参加し、要望のあるご入居者には制度を活用して頂く様にしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	法改正等の重要事項説明書内容変更の際にはご家族の疑問や質問にに対し、理解を得て頂くよう十分な説明を行なっています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族面会の際に意見・要望がないか聞くようにしているほかに、ご意見箱の設置や運営推進会議・家族懇親会で意見を頂く機会を作っています。また、ご家族にはホーム便りを送付しています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットミーティング等を利用し、意見や要望を話し合いながら信頼関係を築けるようにしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員1人1人の特性を見出し、向上心を持って働けるよう努めています。代表者も現場を訪れ、職員の状況把握に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の能力に合わせた教育計画を作成し、外部研修の呼びかけや他部署への研修を行ない、働きながらトレーニングしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア推進会議や勉強会等に積極的に参加して、良いところは学び、取り入れるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学をして頂いて説明を行ない、疑問や不安、要望などをお聞きしています。ご本人の生活歴などの情報を集め、信頼関係を築けるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の事前説明時に家族の想い、困られている事や不安な事に傾聴し、出来るだけご要望に沿えるよう丁寧に説明を行ない、関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人が必要としている支援を見極め、家族の意見・要望も考慮しながら支援できるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯干し・洗濯たたみ、食器拭きや掃除機掛けなどを自然な形で無理が無いように、その日の体調を職員が確認しながら一緒に行なっています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族へ行事の参加をお願いしたり、ホーム便りで本人の様子をお伝えしています。又、面会に来られた時はお互いに情報交換しながらより良い支援が出来るように協力関係の構築に努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人と馴染みの方との面会はもちろん、ご本人の希望があれば電話や挨拶のハガキが出せるように支援し、関係の継続に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	気が合う方同士の席の配置に気を配り、お やつ時間、体操、レクリエーション等ご入 居者同士が気軽に集まって関わりあえるよ うに支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同法人内の施設などに移られた方は、ス タッフ間で情報を共有して継続的に支援し ています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	ご家族や本人からお話を聞いたりして、こ れまでの生活を大切にケアプランの検討を 行なっています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	ご家族や本人からの聞き取りや担当ケアマ ネージャー等から話を聞くなどして、これま でのサービス利用や生活歴の把握に努め ています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	記録に残し、情報を共有する事はもちろん、 ミーティングでも一人一人の状態について 話し合い、現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合 い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状 に即した介護計画を作成している	介護計画作成時は家族の意見を伺い出来 るだけ意向に添うように作成しています。 又、ミーティング時や日頃の業務の中でも 検討を行なっています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に添った支援が出来ているか、 チェック表を作成し、毎日記入しています。 統一出来るよに業務日誌の申し送り欄にて 情報共有をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	提携医療機関に関して受診や退院時の送迎を行なうなど柔軟な対応を行なっています。提携以外の医療機関受診の場合もヘルパーや介護タクシーの紹介等をさせていただきます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議にて地域の方々にご協力頂けるよう働きかけています。消防署をはじめ、警備会社や地域の方々と連携を図り、安全な生活を送れるように支援しています。また、地域のイベント等に職員が参加する事で交流を図っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関以外は、原則ご家族対応にて受診して頂いています。受診前後には情報交換を行ない、必要に応じて医師との連絡を取り合い、信頼関係を築いています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間体制にて主治医・看護師と連絡を取り合い、対応する体制が出来ています。普段より、緊急時にも対応出来るよう細やかな情報交換を行なっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご入居者の入院時には医療機関への情報提供を行ない、主治医への相談やご家族の連絡を取る事により安心できる早期退院への取り組みを行なっています。また退院時にはグループホームでの受け入れ態勢を整えています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期を迎えたご入居者のご家族や医師と連携、相談をしてマニュアルを作成しています。希望に沿った支援が出来るように定期的にチームで話し合い、見直しを行なっています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内外における研修に各職員が参加する事や緊急時マニュアルを把握しておく事で、緊急時にも冷静な対応ができるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年2回の避難訓練や毎月のユニットミーティング、勉強会を通じ、初期消火・避難道具・非常時の連絡、通報、誘導など全職員が参加し、身につけるよう努めています。また、訓練時には地域の方やご家族の参加も呼びかけ、協力を得ています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者一人一人の人格を尊重する為、職員が自分振り返りの勉強会に参加したり、丁寧な言葉遣いを徹底しています。又、申し送りなど、ご入居者に関わることはご入居者の居ない場所で行なっています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者の状態に応じた声掛けや対応を心掛け、意志表出が困難な方に対しては、日ごろの観察を徹底して、表情や仕草を読み取るよう、心掛け、自己決定できるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室に閉じこもってしまうばかりにならないように生活リズムが乱れない程度に声掛けし、なるべく他の方との交流が図れるようにしています。その時の気分や体調を考慮して、本人の自己決定を尊重しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時は帽子や上着をご本人と一緒に選び、またパジャマや洋服をスタッフと選び、日夜のリズムを大切にしています。また、月に1回の美容サービスも希望に応じて受けられるようになっていきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	お誕生日にはバースデーケーキをご用意したり、鍋・お好み焼き等を入居者の前で調理したりして、食事を楽しんで頂けるように取り組んでいます。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量から調理方法や形態を日々考え、少しでも安全に美味しく召し上がって頂けるよう工夫しています。水分補給はトロミをつけたり、代替品(アイスクリーム、ゼリー・ポカリ等)を使用し、ご本人が好んで摂取できるようにして提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後に口腔ケアをして頂いています。ご自分で口腔ケアが困難な場合は職員が支援しています。又、提携している歯科受診や口腔ケアサービスも使用しています。義歯の方は定期的に入れ歯の洗浄を行なっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を有効活用し、個々の排泄間隔の把握に努めています。失敗してしまっても周囲の方に気付かれないように配慮しています。ご入居者からのサインも見逃さないよう観察し、職員間でも情報共有に努めています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便状況の確認を行ない、便秘薬の調整を行なっています。又、水分補給、食事、運動など、工夫を行ない便秘の予防が努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴チェックシートを付けて、ご入居者の要望に合わせた入浴をして頂いています。一人一人の入浴の好みを把握し、楽しめる様に支援しています。希望時には可能な限り応じるようにしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人が自由に休める様な形を取っています。疲労感が見られる時やその方の生活習慣に応じて休んで頂けるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬について理解出来るように、薬情報書をいつでも見られるようにファイルに綴じて、申し送りを行ない、職員間で周知できるように努めています。又、服薬時にダブルチェックし、誤薬事故のない様に取り組んでおります。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事などはして頂き、食器拭き・洗濯干し・掃除などの作業提供を行なっています。他階に行き、話しの合う方とコミュニケーションが取れるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩に出掛けたり、駐車場に出てみんなで日光浴をしています。又、ご家族に依頼してお墓参りや自宅へお連れして頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分でお金、財布を所持している方も居られます。散歩や外出時に持参しお金を使う機会もあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が好きで、かけたい時に掛けれるように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂けるように、お花を飾ったりご入居者と共同して作成した工作物を飾ったりして環境づくりを行なっています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合ったご入居者同士、隣に座って会話が出来るようにしています。テレビを見たり、新聞を読んだり、広告折りをしたりと好きな事をして過ごせるように心掛けています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族に依頼して写真を持って来て頂いたり、使い慣れた物や仏壇などをもって来て頂き、ご本人が安心して生活できる空間を作れるように工夫しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレ、風呂場など分かりやすいように表示し、間違わないようにしています。フロア内も環境整備を行ない、事故につながらないように気を付けています。		